

お知らせ

男女共同参画行動計画の評価指標を検討しています

市では、平成16年3月男女共同参画行動計画を策定しました。行動計画の概要は、(1)計画期間が平成16年度から20年度、(2)計画事業の規模が215事業、(3)重点施策が、①家庭生活とその他の活動の両立支援、②政策・方針決定への女性の参画推進、③女性に対する暴力の根絶に向けた取り組み、④市民との協働による男女共同参画の推進体制、です。

この計画を実効性のあるものにしていくため、今後、「計画→実施→評価→改善」のサイクルにより評価を行っていきます。まず、市役所内部の評価として、計画に掲載した事業の進捗状況を毎年すべての部署で調査します。内容は事業の目標等についての達成度を申告し、取り組みを継続していきます。

重点施策の1つである「政策・方針決定への女性の参画促進」については、計画期間中に市の審議会等への女性登用率を30%とすることを目指しますが、これについては、目標値を部局ごとに設定し、達成に向けて取り組みを開始しました。

また、こうして行政が行った事業が、市民、事業者のみなさんにどのような波及効果をもたらしたかを、その尺度となる「社会指標」を決め数値的に測定することで、事業の達成度と有用性を評価し、更に次の計画につなげていきます。

市民委員で構成される「男女共同参画審議会」では、本年度、その評価に用いる「社会指標」の決定と数値目標の設定に取り組んでいます。7月から8月にかけて、その素案を市民のみなさんに公開し、53件のご意見をいただきました。今後、寄せられた意見を反映させ、行動計画の評価体制を確立していきます。

社会指標とは・・・

「社会指標」とは、行政(市)が何を行ったかではなく、それによって、市民、事業者のみなさんにどのような波及効果(成果)があったかを調べるための尺度です。

例えば道路の建設という事業であれば、「整備面積」や「総延長」という実施結果でなく、それによってもたらされた「渋滞解消率」という成果を物差しとすることです。

男女共同参画行動計画を評価する指標案(抜粋)

- ① 静岡市男女共同参画推進条例の理念または内容を知っている人の割合
- ② 社会通念・慣習・しきたりにおける男女の平等観
- ③ 中学校生徒会長及び小学校児童会長における女性の割合
- ④ 「管理的職業従事者」における女性の割合
- ⑤ 女性のPTA会長の割合
- ⑥ 女性の町内会長、自治会長の割合
- ⑦ 家族経営協定の締結家族の数
- ⑧ DVまたはセクハラ被害の相談窓口を知っている在住外国人の割合
- ⑨ DVまたはセクハラについて研修を受けたことのある人の割合
- ⑩ 妊娠や出産をめぐる女性の健康と権利に特に配慮すべきであると考える人の割合



Pas ā pas
パザパ
男女共同参画社会へ一歩いっぽ近づぐための情報誌

発行/静岡市企画部男女共同参画課
企画編集/市民編集スタッフ 井上智恵美・近藤亜紀子・宮城島真理・望月美生子
〒420-8602 静岡市追手町15番1号 ☎054-221-1349

http://www.city.shizuoka.shizuoka.jp/
e-mail:sankaku@city.shizuoka.shizuoka.jp



Pas ā pas

男女共同参画社会へ一歩いっぽ近づぐための情報誌

パザパ

No.3
2004.10



特集

結婚に関するいくつかの事実

“そのとき”
何か忘れていませんか。

特集

“そのとき”何か忘れていませんか。

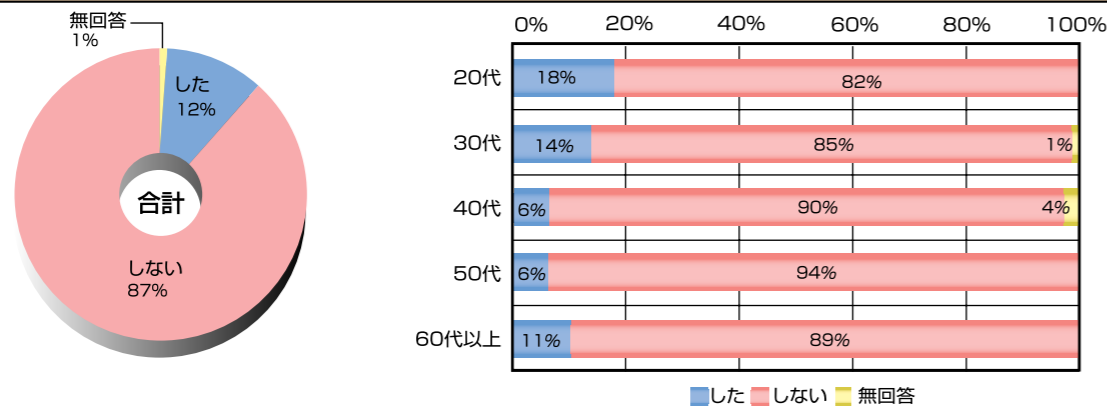
～結婚に関するいくつかの事実～

近年、わが国の「結婚」をとりまく社会環境は大きく変化しました。では一步踏み込んで、男女の関係はどのように変わったのでしょうか。今回『パザパ』では、263人の市民のみなさんのご協力のもと、「結婚」をキーワードにアンケート調査を行いました。女と男の意識や価値観の違いはどこにあるのか？結婚式はどう変わったのか？調査で明らかになった結婚に関するいくつかの事実を紹介します。

- 調査時期 平成16年7月
- 調査対象 静岡市在住の既婚男女263人(女性180人、男性83人)
20歳代33人、30歳代113人、40歳代51人、50歳代31人、60歳以上35人
- 調査内容 ①プロポーズはどちらから ②結納は行いましたか ③結婚式の形式は ④披露宴会場は ⑤結婚式の満足度は ⑥結婚後の生活について など

結婚に際し、役割分担について話し合う人は少ないが…

Q 結婚後の生活について生活上の役割分担(炊事、洗濯、掃除など)の取り決めをしましたか。



●どの世代も80%以上が生活上の役割分担を決めず結婚している。しかし20歳代で18%、30歳代で14%と低い数値ながらも、若い世代で結婚前に分担を取り決めるケースが増えている。

●この質問を結婚直後に限定しなかったため、結婚生活の中で徐々に分担をするようになったり、夫が定年退職によって家事を分担するようになった場合も、「取り決めをした」にカウントされている可能性もある。

ちょっと一言 夫は仕事、妻は家事と育児、ほんとうにそれでいいの？

●役割分担の取り決めについては、取り決めが最も必要な結婚前にはほとんど行われず、いまさらという感の強い結婚後、しばらくしてから「やっぱりきちんと決めておけばよかった」と思ったケースが少なくないようです。(多分そう考えるのは女性でしょうか?)

●60歳以上も11%と30歳代と同水準。その内容の記述からは、若い世代が「夫と妻で協力して家事をしよう」と取り決めをするのに対し、高齢世代では「夫は仕事、妻は家事と育児」という昔ながらの役割分担も、「取り決め内容の違い」で、11%の意味はガラリと変わってきます。

対等意識は、男女間で差が…

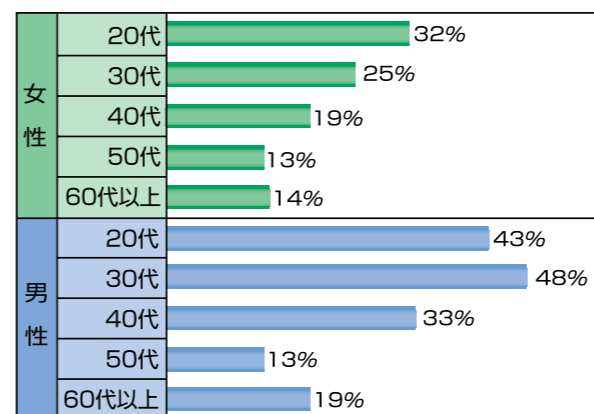
Q 結婚後の2人の関係について、あなたはどのような姿勢でのぞみましたか。

		どんなときも対等であるべき	夫は妻を守るべき	妻は夫をたてるべき	時と場合による	その他	無回答
女性	20代	32%	0%	5%	58%	0%	5%
	30代	25%	7%	10%	55%	2%	1%
	40代	19%	3%	19%	47%	3%	8%
	50代	13%	22%	9%	48%	4%	4%
	60代以上	14%	21%	50%	14%	0%	0%
	全体	22%	8%	14%	49%	2%	3%
男性	20代	43%	14%	7%	36%	0%	0%
	30代	48%	8%	0%	40%	4%	0%
	40代	33%	7%	13%	27%	20%	0%
	50代	13%	0%	13%	50%	13%	13%
	60代以上	19%	38%	5%	38%	0%	0%
	全体	34%	16%	6%	37%	6%	1%

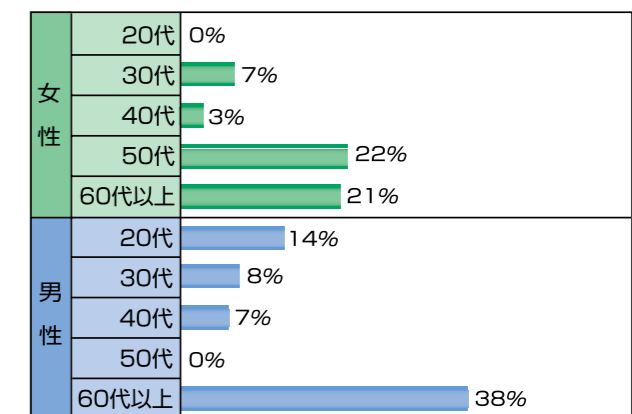
●「どんなときも平等であるべき」という回答は、男性全体の34%に対し、女性全体で22%。世代別では20歳代～30歳代の男性で割合が高い。女性の回答で1番多かったものは「時と場合による」だった。

●その他の目立つ数値としては、60歳代以上で「妻は夫をたてるべき」が女性で50%、「夫は妻を守るべき」が男性で38%を占めた。

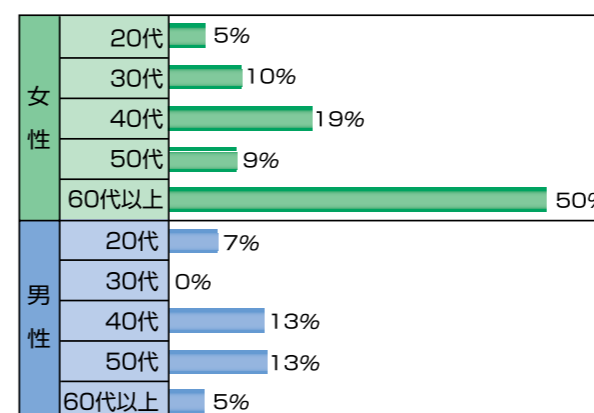
どんなときも対等であるべき



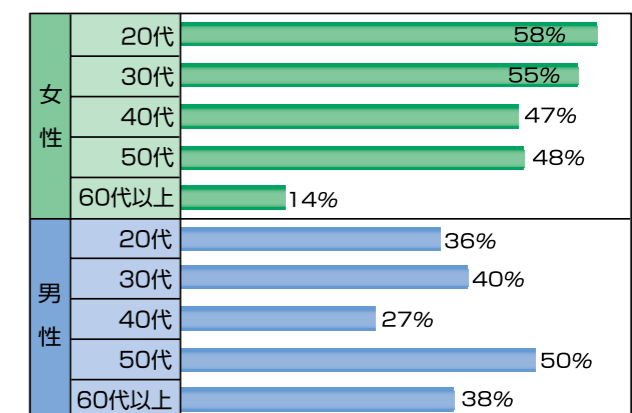
夫は妻を守るべき



妻は夫をたてるべき



時と場合による

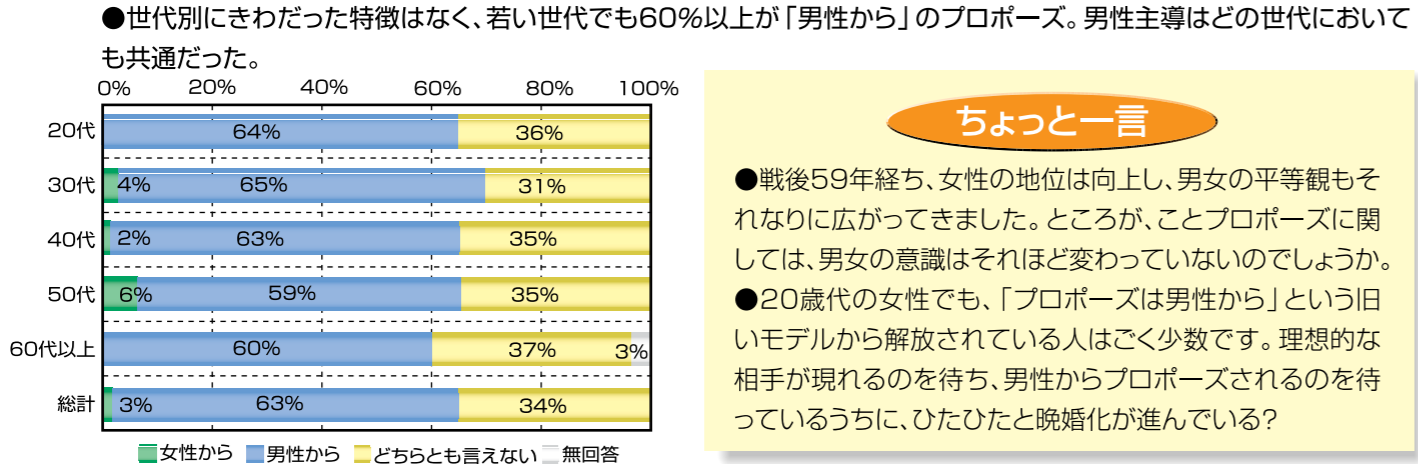


ちょっと一言 頼られなくなってきた夫、TPOで使い分け妻。

●「どんなときも平等であるべき」という回答は女性より男性の方が多い。女性側の回答割合が最も高いのは「時と場合による」で、これは「どんなときも対等であるべき」こともあれば「夫は妻を守るべき」ことがあってもいい回答です。TPO(時、場所、場合)によって使い分けているのではと勘ぐらせる結果でした。

●「どんなときも平等であるべき」と回答した20歳代、30歳代の男性たちをどう見るか。多くの男性が男女平等の意識に目覚めたのか。それとも頼られたってそんなことできないという現代男性の本音なのか。それとも守ってもらわなくてもいいほど女性が強くなったのか。判断が難しいところです。

Q プロポーズ（結婚の申込み）はどちらからしましたか。

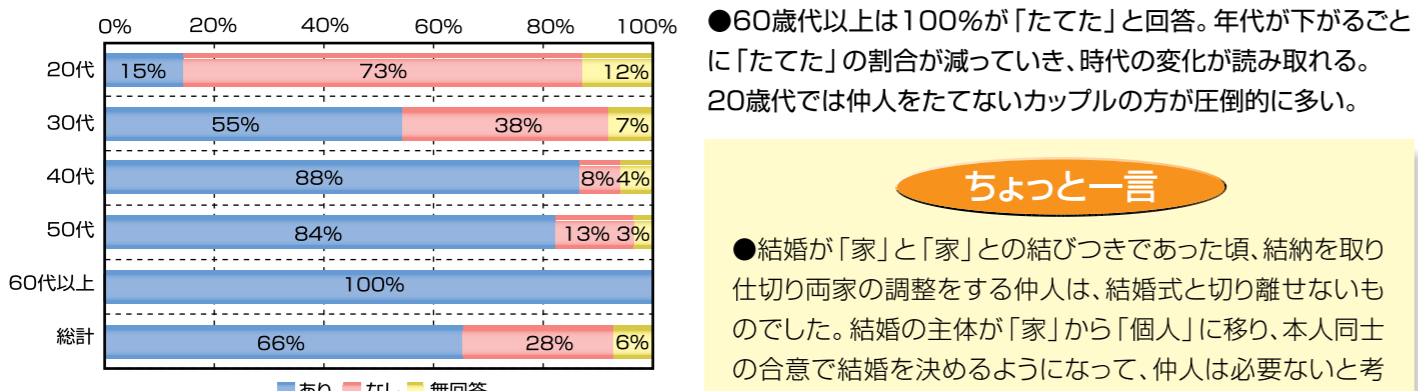


ちょっと一言

●戦後59年経ち、女性の地位は向上し、男女の平等観もそれなりに広がってきました。ところが、ことプロポーズに関しては、男女の意識はそれほど変わっていないのでしょうか。

●20歳代の女性でも、「プロポーズは男性から」という古いモデルから解放されている人はごく少数です。理想的な相手が現れるのを待ち、男性からプロポーズされるのを待っているうちに、ひたひたと晩婚化が進んでいる？

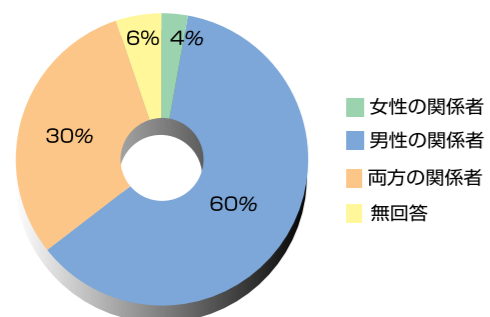
Q 仲人はたてましたか。たてた場合どちらの関係者ですか。



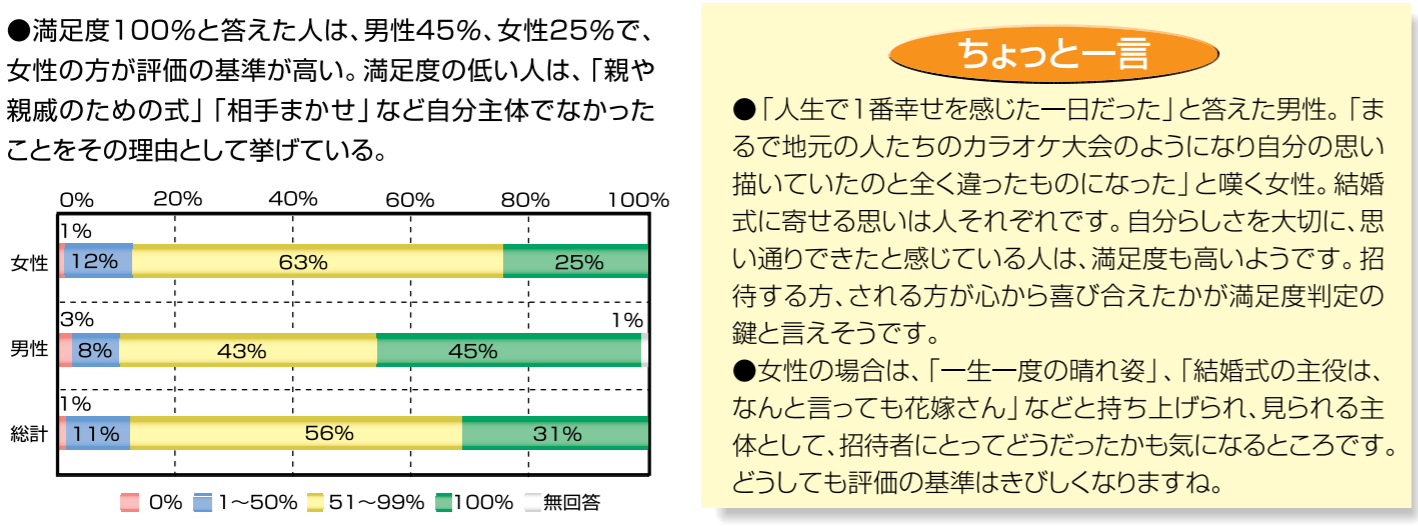
ちょっと一言

●結婚が「家」と「家」との結びつきであった頃、結納を取り仕切り両家の調整をする仲人は、結婚式と切り離せないものでした。結婚の主体が「家」から「個人」に移り、本人同士の合意で結婚を決めるようになって、仲人は必要ないと考える人が増えたようです。

●仲人をたてた場合でも、女性の関係者に依頼するケースは4%にすぎません。男性の職場の上司が仲人になることが多いためと考えられます。仲人を頼むとき、女性は男性の意向を優先し、男性は仕事上の関係を引きずるところは、時代が進んでも変わっていないのでしょうか。



Q 結婚式、披露宴についての満足度は「完全に」満足しているのを100%とした場合何パーセントですか。

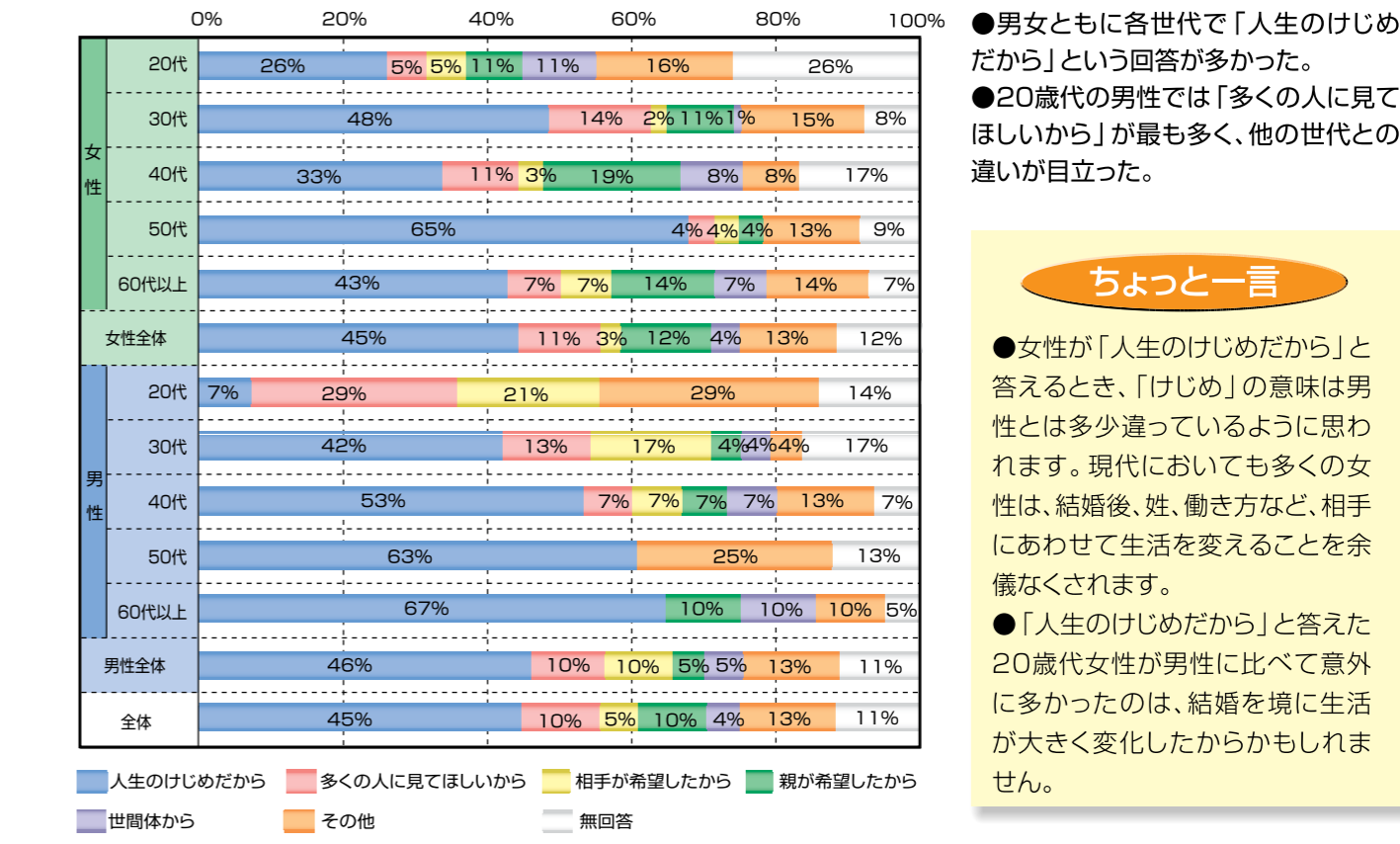


ちょっと一言

●「人生で1番幸せを感じた一日だった」と答えた男性。「まるで地元の人たちのカラオケ大会のようになり自分の思い描いていたのと全く違ったものになった」と嘆く女性。結婚式に寄せる思いは人それぞれです。自分らしさを大切に、思い通りできたと感じている人は、満足度も高いようです。招待する方、される方が心から喜び合えたかが満足度判定の鍵と言えそうです。

●女性の場合は、「一生一度の晴れ姿」、「結婚式の主役は、なんと言っても花嫁さん」などと持ち上げられ、見られる主体として、招待者にとってどうだったかも気になる場所です。どうしても評価の基準はきびしくなりますね。

Q 結婚式・披露宴を行った理由は。

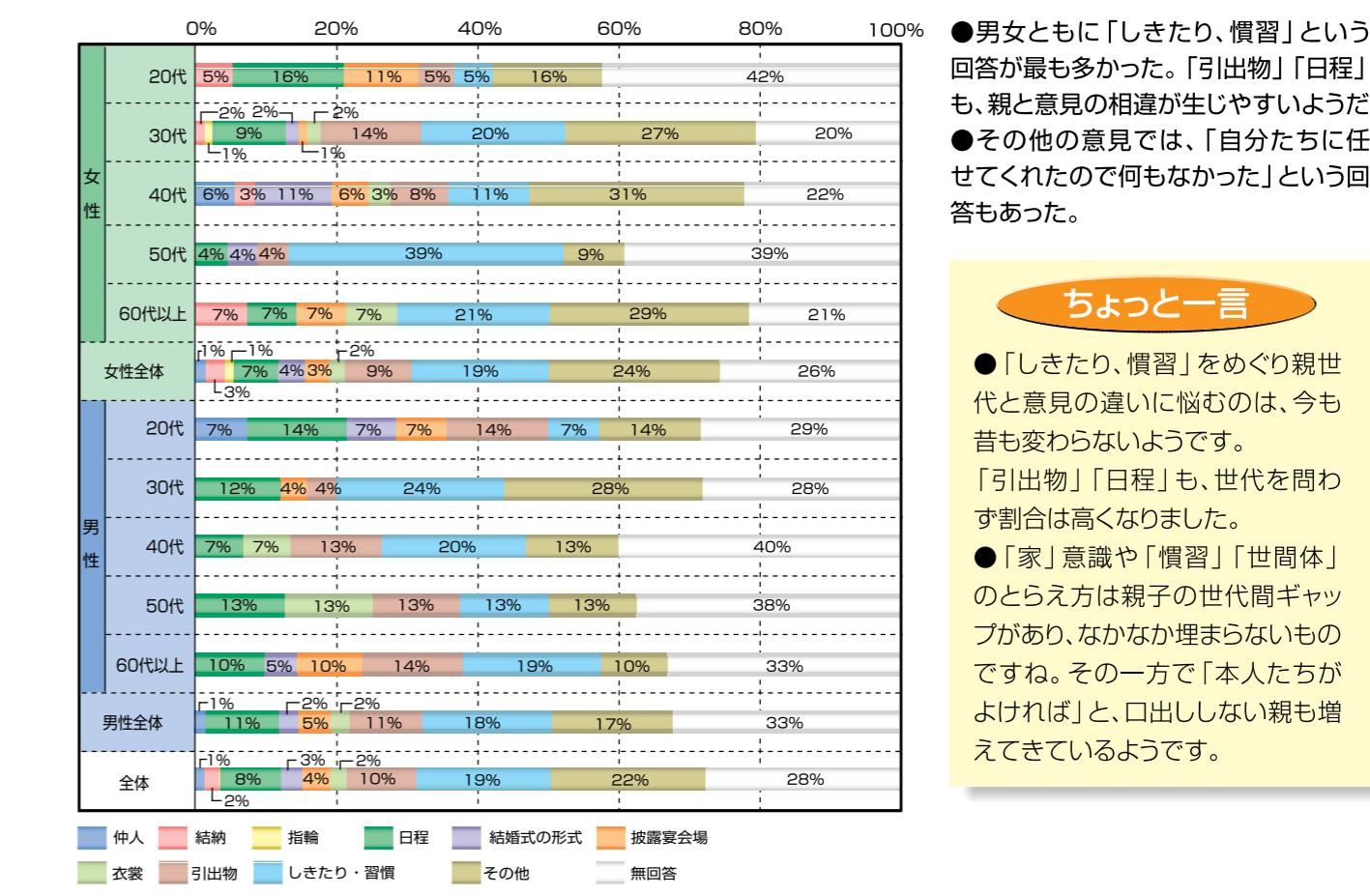


ちょっと一言

●女性が「人生のけじめだから」と答えるとき、「けじめ」の意味は男性とは多少違っていているように思われます。現代においても多くの女性は、結婚後、姓、働き方など、相手にあわせて生活を変えることを余儀なくされます。

●「人生のけじめだから」と答えた20歳代女性が男性に比べて意外に多かったのは、結婚を境に生活が大きく変化したからかもしれません。

Q 結婚式を挙げるにあたって、親との間で一番悩んだ点は。



ちょっと一言

●「しきたり、慣習」をめぐる親世代と意見の違いに悩むのは、今も昔も変わらないようです。「引出物」「日程」も、世代を問わず割合は高くなりました。

●「家」意識や「慣習」「世間体」のとらえ方は親子の世代間ギャップがあり、なかなか埋まらないものですね。その一方で「本人たちがよければ」と、口出ししない親も増えてきているようです。

(※グラフ中0%のものは、色表示していません)



打ち合わせは、当事者おふたりで…



静岡市紺屋町
静岡グランドホテル中島屋
支配人 いわの としみ 岩野寿己さん

いま、結婚式・披露宴のほとんどは、当事者であるおふたりが内容を決めていきます。それはもう100%ですね。ひと昔前までは、自ら結婚式場と交渉して自分たちのイメージにあった結婚式を挙げようというカップルはあまりいらっしゃいませんでした。もちろん情報源もありませんでしたから。しかし今はみなさん、何れ所も式場をご覧になり、結婚情報誌をお調べになっていますので、いろんな手法をご存じです。その中から納得のできるスタイルをお求めになるので、こちらとしてもそのご要望に応えなくては、選んでいただけない時代になりました。

結納もまた変わってきました。媒酌人をお願いする方は

全体の1割ぐらいで、結納というよりも、ご両家のお顔合わせの会という内容のものが増えています。結納品一式をとりそろえるご家庭はぐっと減りました。媒酌人をたてないわけですから、披露宴の内容もおふたりで自由に組み立てられます。式場の決定権は、現在は女性ですね。引出物や料理に関してはご両親のご意見も参考にされるようですが、とにかく打ち合わせは当事者であるおふたりだけでお見えになります。

結婚式のスタイルもがらりと変わりました。いまの若い方は、顔も知らないお客様をお呼びするよりも、ほんとうにお祝いして下さる親しい方々をお招きしたいのです。お色直しの回数も1回、多くても2回ぐらいになりました。

また海外挙式だったり、挙式だけだったり、入籍だけだったり、婚礼という形への意識はどんどん変わっています。市場が成熟し、オリジナリティの追求ももっと進んでくるでしょう。家族のあり方が変わって、婚礼のスタイルに影響を与えているのですから、当方もサービスのあり方を変えていく必要が出てきたというわけです。

今は75%がチャペル、神前は5%…



静岡市清水区
マナーハウス・エリザベート
支配人 やまうち かつあき 山内勝昭さん

昨年9月にオープン以来、質の高い結婚式を挙げて頂きたいと、貸し切りスタイルで邸宅ウェディングを提案しています。招待客が80名位の披露宴が多いのですが、ご両親も出席しない、ふたりだけの結婚式をチャペルで挙げた方もいました。

昔は家と家との結びつきという面が大きく、仲人さんを入れて結納もしっかりやって、親戚、来賓、友達、ご近所の方まで招待して結婚式をするのが当たり前でした。最近は、親戚だけ呼び衣装も着ないで会食だけでいい、あるいは友

達だけ呼び会費制というカップル。仏滅でもかまわないという人から、暦や曜日こだわる人まで色々です。以前は神前結婚式が一般的でしたが、今は75%がチャペル、10%が人前、5%が神前、残りは海外で式を挙げ披露宴だけおこなう方などです。チャペルなので白無垢、色打ち掛けを着ない花嫁さんも多くなりました。ふたりでいくつか式場を回って、どこで結婚式をやりたいか、自分の希望を叶えてくれる式場はどこか、夢をふくらませるのが花嫁さん。その中から金額などの折り合いがつくところで最後の結論を出すのが花嫁さん、という感じを受けています。

私は20年間この仕事に携わってきましたが、式をやる人が減ってきたという実感があります。仲人がいなくなったことや、料理や飲み物に期待して来るお客様が多くなったことにも変化を感じますね。でも結婚式という文化をなくしたくないですし、結婚式は親戚や友人に相手をしっかり紹介する場であるという伝統は、少子化の時代だからこそ守っていきたくと思っています。

特集から 見えたもの

今回の調査・取材を通じて、結婚式が形式やスタイルなど表面的な部分で、家と家とを結びつけるための儀式から、当事者本人たちのためのものに移り変わりつつあるという実態がうかがえます。

しかし、結婚式がゴールではなくスタートであると考えた時、女性、男性それぞれの意識のうえで、結婚そのものに対する価値観はあまり変わっていない点も見て取ることができます。

多様な生き方が可能になり、結婚が女性の幸せと思われていた時代から、女性の幸せの一つが結婚となった今、結婚とは何か。だれかと共に生活し、生きていくには何が大切かを改めて考えることが必要ではないでしょうか。

結婚に際してのまさに“そのとき”そのことに向き合って結論を出すことができる人は少ないかもしれませんが、結婚後、10年、20年たって、お互いの人生にとって結婚したことがプラスになっていたらステキですね。



No.3
起業・SOHO通信

※SOHO…Small Office Home Officeの略で社員が
数人の小規模事務所や自宅を事務所にする
在宅勤務者などの総称

ミニカー専門店 ミニカーショップ

有限会社 スタイル



静岡県内で「最低資本金規制の特例」第1号適用を受け、年間売上高1億円突破を目指すミニカーショップ有限会社スタイルの山田麻紀社長に、起業のきっかけ、今後の展望などについてお話をうかがいました。

同社は、SOHO支援施設SOHO@しずおか入居中の親会社、有限会社バリューファクトリーとの連携のもと事業展開しています。

起業のきっかけは“最低資本金制度”

以前から、ウェディングの仕事を会社として始めたかったのですが、資本金の300万円を揃えることが大きな壁でした。起業のきっかけは、2年前の7月頃、1円の資本金でも会社が設立できるという、“最低資本金制度”をニュースで知ったことです。

その時から本気で起業を考え、去年の2月1日に法律が施行される前から、会社設立の準備にとりかかりました。できたばかりの制度ということで、様々な方に協力していただき、やっと設立できました。

ミニカーとの出会い

実際に会社を設立後、ウェディング事業の準備をしている時に、偶然ミニカーと出会いました。自動車販売店のショーウィンドウに飾られたカラーサンプルのミニカーを見つけ、同じものが欲しくなり、すぐにネットで検索。大人向けの精巧なミニカーを発見し、1台購入したところ、予想以上に完成度が高く驚きました。

その時、ひらめきました！すぐにネットでの市場調査をし、ミニカーショップを見に行ったりして、「これは商売としてやっていけるだろう」と考え、決断したのは去年の5月頃でした。



“いち早い”情報発信

基本的にインターネットでの販売で、10~25cmくらいのおもちゃの商品を中心に取り扱っていますが、中には、大きさ1m、65万円するミニカーもあります。

毎日、ミニカーの予約・入荷情報をメールマガジンとして流すことや、お客様からの注文や問い合わせには素早く対応するように心がけています。特にメールマガジンは、いち早く情報を流していますので、「他のショップよりも早い」と好評を得ています。

何が商売になるかわからない時代

今後の予定としては、ミニカーにこだわらず、お子様用の高級乗用玩具等の新規商品の販売を考えています。更に、当初の目的であるウェディング事業を開始する予定です。

私は何にでも興味を持つタイプですが、ミニカーの販売を始めてつくづく思ったことは、「何が商売になるかわからない」ということです。これからは枠にとらわれず、新しいビジネスを展開していきたいと思っています。



ミニカー専門店 MiniCarShop Style!!
有限会社スタイル

〒415-0018 静岡県下田市西中22番地7 2F
TEL0558-25-3455 FAX25-1112
ホームページ: <http://www.minicarshop.jp/>
E-mail : info@minicarshop.jp

SOHO@しずおか
TEL 054-653-8800 / FAX054-653-8801
ホームページ
<http://www.soho-shizuoka.gr.jp/shizuoka/>
E-mail
info@soho-shizuoka.gr.jp

シリーズ
元気なグループ紹介
No.3

市内には、自らの情報交換や自己研鑽にとどまらず、地域社会に向けて情報を発信しているグループがあります。今回は、独自の方法を開発し、地域に出前講座として出向き、男女共同参画に関する情報発信をしている2つの“元気なグループ”を紹介します。

カレッジⅣ (フォー)

カレッジⅣは、第4期アイセル女性カレッジ修了生の有志が集り、平成13年1月に発足しました。

メンバーの年代は30代から60代と幅広く、一時保育支援や国際交流、消費生活など別の活動領域を持つユニークな8名。そんな個性豊かなメンバーが集まると、お互いの元気パワーが融合して、最大の活動エネルギーになります。

最近の主な活動は、学習会「かるたで学ぶ男女共同参画社会」の開催です。平成13年秋から取り組んできた「ジェンダーかるた」に関わる活動が実を結び、今春、念願のかるた札を完成させることができました。学習会では、受講者がオリジナルのかるた札を教材に「男女共同参画社会とはどんな社会なのか」を考えるきっかけ作りをしています。子どもやお年寄りのグループには、かるた会で楽しんでもらいますが、合間、合間に説明を加えることによって関心が高まります。

「ジェンダーかるた」も実費頒布することによって、全国各地に旅立っています。他県の女性センターからは、貸出図書の日返りのしおりに引用させてほしいとか、パネルにして展示させてほしいと申し出があり、メンバー一同大変喜んでます。

発足当初は、市の出前講座を利用して自分たちが受講者の学習会を開くだけだったグループが、自分たちで企画した学習会を開催するまでに成長しました。これからも、かるたを使って、楽しみながら学べる学習会を開いていきたいと考えています。



カレッジⅣ ホームページ
<http://www.s-cnet.ne.jp/~beh03009/index.html>
かるたをご希望の方は、谷口方FAX (054) 281-3024
またはEメール (college4@mail.goo.ne.jp) でお申込みください。1セット500円で頒布中(送料自己負担)。

清水ネット 男女共同参画プロジェクト

仕事をしやすく、生きやすく、暮らしやすい男女共同参画社会の実現に向けて、市民だからこそできる啓発活動をと、昨年プロジェクトを立ち上げました。メンバーは男性を含む12人です。男女共同参画についてあまり知らない方や男性にも共感が得られるような講演とワークショップ・恒例の市民フォーラム等を開催しました。

今年は、活動のすそ野を広げるため、紙芝居「かんべき完子さんの30年」「いそやさんち」の2本を創作し、様々な地域、年代、職業の方々の所へ直接出向く出前講座を企画しました。昨年度に引き続いて、静岡県男女共同参画センター交流会議の「地域の男女共同参画をすすめる事業」に応募し、企画実践費をいただきました。

講座のテーマは「どんな生き方、好きですかー括らずに活かせる男女の多様性ー」で、プロジェクトのメンバーが講師を務めます。内容は、みんなで歌謡曲を歌い、手作り紙芝居上演と導入部に工夫をこらし、ワークショップを行います。登場人物の10年後を想像したり、それぞれの人物が豊かに生きる術を考えたり、これから暮らすなら2つの紙芝居のどちらの家庭を選ぶか、など出前先の実情にあわせ、その都度創意工夫を凝らしています。

今後は、子育て、介護、地域活動などテーマ別に絞った紙芝居を制作し、講座の中身を充実させ、各種団体への出前を充実させ、意識を変えるきっかけづくりをしていきます。



連絡先:清水ネット
男女共同参画プロジェクト
石月桂子 TEL・FAX (0543) 65-3411
※このプロジェクトに関心のある方はどなたでも出前講座のスタッフとして活動できます。

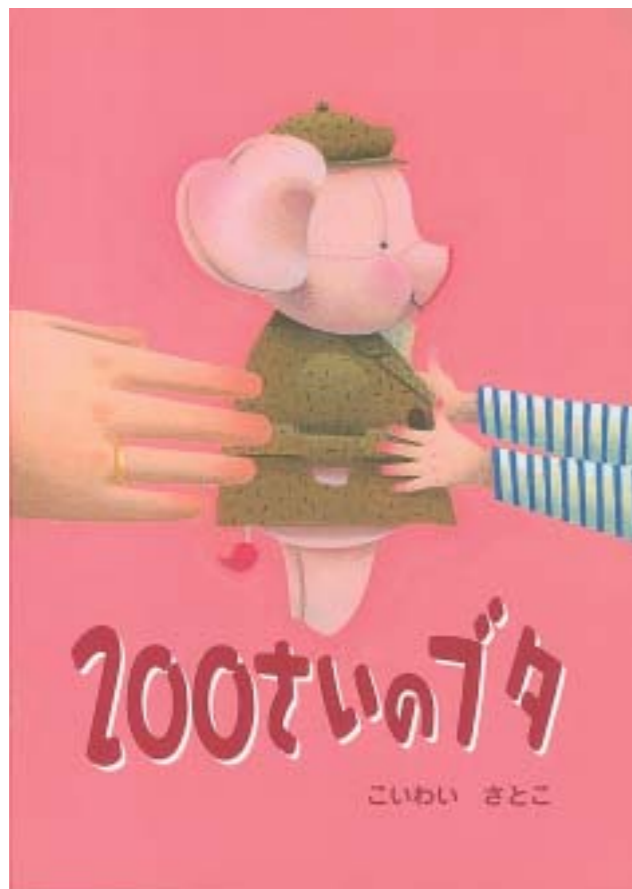


シリーズ 男女共同参画の視点で選ぶ絵本

No.3

静岡市がこんな絵本をつくりました!

200さいのブタ



静岡市発行の絵本

市では、未来を担う子どもたちが「女の子だから、男の子だから」と生き方を制約されることなく、伸び伸びと育て欲しいという願いを込めて啓発絵本を出版しています。

これまでに、作家の落合恵子さんや市民グループの協力をいただき、2つの作品「おおきくなったら」「これはあなたへのプレゼント」を発行、配付してきましたが、3作目に

なる今回、初めて一般公募により作品を募集しました。北海道から九州までの全国各地から、また年齢も12歳から72歳までの幅広い層にわたり、様々な方から、熱いメッセージが込められた37作品の応募をいただきました。

その後、児童文学作家の草谷桂子さん、絵本作家の長野ヒデ子さん、児童文学作家のひこ・田中さんの3人の審査員による厳正な審査会が行われ、大賞には、福岡県のこいらいさとこさん作の「200さいのブタ」が選ばれ、編集作業を経て絵本として完成しました。

完成した絵本は、静岡市立安東幼稚園で、市長から園児への贈呈式を行うとともに、市内の幼稚園、保育園の5歳児全員にプレゼントしました。また、市内の図書館にも配付しました。

絵本は、子どもの成長にかけがえのないさまざまな感性を育ててくれます。この絵本と出会うことが、子どもたちや、そして共に読んでくださる全ての方にとって、性別にとらわれない多様な生き方を考えるきっかけになることを願っています。

草谷桂子さん(編集協力・審査委員)からのメッセージ

全国津々浦々から集まった応募作品を、ワクワクしながら楽しく拝見しました。

「絵本」と共に「ジェンダーの課題」について関心を寄せる大勢の人たちが、難題に挑戦してくれたことを、心より感謝しています。

「テーマが押しつけがましくなく、絵本として良質なものを選ぼう」が3人の選者の共通認識でした。そのため、選考も慎重で、厳しかったと思います。

私たち選者が、迷いに迷い、議論しながらようやく結論を出したように、応募してくださったみなさんも、絵本づくりの過程の中で、「絵本とジェンダー」について迷ったり、深く考えたりしてくれたのではないのでしょうか?

途中で諦めた方も含め、この課題に立ち向かってくださった全ての皆様に乾杯!

「200さいのブタ」よせて

この絵本には「変わるもの」と「変わらないもの」2つの世界がみごとに描かれています。

「変わるもの」は、時代の流れによって変わるものです。生まれた頃のブタさんは着物姿ですが、裏表紙のブタさんは、何やら洋風仕立てのおしゃれをしています。

着るものだけでなく、大人が子どもたちの幸せを願って手渡してきた価値観も、個人の生き方も変わってきました。ナナもタクも、「女らしく」「男らしく」という従来の縛りから解放され、なんと伸び伸び活躍していることでしょうか!

一方、「変わらないもの」は、大人から子どもたちへの、子どもたちからブタさんへのたっぴりの愛情です。絵本のブタさんが幸せそうな顔をしているのは、「変わるもの」と「変わらないもの」その両方を、200年もの間しっかり見続け、感じ続けているからだと思います!

審査委員からのメッセージ

長野ヒデ子さん

なんといってもこのブタくんの魅力的なこと、しかもおばあちゃんの、おばあちゃんの、おばあちゃんの、ずーっと昔の昔のよくわからないほど昔の手作りで、200さいなんだって! いろいろな子どもに愛されて、抱きしめられて、そしてよみがえり、よみがえり、子どもたちの心にトコトコ歩いてゆくことができるブタくんになったのだね。さすが200さいだ!

ただ子どもたちのそばにただいだけ。だのに大事なこといっぱい教えてくれるかのように、子どもたちの心をしっかり受け止めている。大人はすぐ何かを教えたりしたがるけど、このブタはなんにもしない。子ども自身の自らの持っている力を信じて、ゆったり、ポーっと見ているだけ。難しいことなどナンニモ言わない、このポーっと加減がいいなあ。でもしっかりと子どもを見つめているのだ。

いいの、いいの、いろいろ至らぬことや、たどたどしいことあっても好きよとだきしめようよ。このブタくんはえらい!

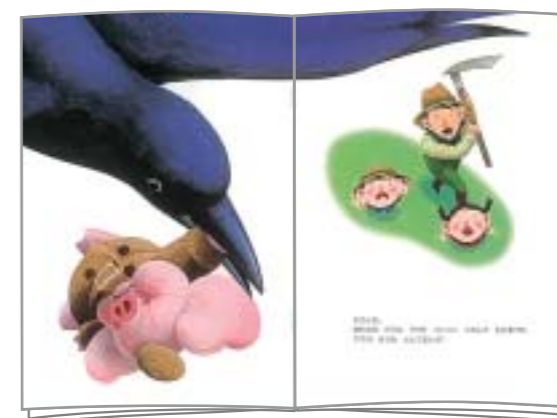
ひこ・田中さん

この絵本にでてくるブタのぬいぐるみは200歳です。とても年を取っていますね。でも、ぬいぐるみだから、大きくもならないし、昔のまま。何度も修理され、大切に扱われていたのですね

(たぶん、少し汚れてしまっているでしょうけど)。200年間、代々子どもたちに受け渡されていった、ブタのぬいぐるみ。それが今、男女の双子タクとナナに与え

れます。これまでの200年だと、ぬいぐるみは女の子のものとして受け継がれてきましたから、女の子のナナに渡されます。けれど、今回は、男の子のタクの方が、このぬいぐるみのブタを好きで……。

それだっていいよね。さいごにブタさんは思います。「ふたりとも、ボクのたいせつなともだちなんだ!」と。うん!



(あらすじ) 代々、女の子に受け継がれてきたぬいぐるみ200さいのブタ。今回は、双子の「タク」「ナナ」のもとに。ふたりの子どもたちの成長をやさしく見守っています。そして……。